

いきいきいき西区ささえあいプラン 平成21～25年度の事業の検証について

計画期間 H21～H26（6年間）

1. 地域の拠点（居場所）づくり

- ①身近な地域に気軽に立ち寄り、参加できる「場」をつくりましょう
 ②同じような目的を持った人たちが集える機会を増やしましょう
 ③世代間や団体間のネットワークづくりと交流をすすめてみましょう

評価：充実した：A、あまり変わっていない：B、後退した：C

事業名	内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度（見込）	評価	事務局 コメント・課題等	委員会 コメント・課題等	担当部署
1 地域の茶の間（いきいきサロン）	身近な地域で気軽に集まり交流する居場所の支援	26団体	33団体	31団体	31団体	35団体	A	地域でお茶の間を開催しようとする自治会等があり、申請団体が少しづつ増えてきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子どもの居場所づくりは、進んできている。 ・障がい者の居場所、障がいを持った子どもの長期休暇の居場所づくりが課題。 ・常設型、少なくとも週1回以上開催できる場所、施設の確保が重要。 ・地域と専門職、施設とのネットワークづくりが必要。重度の障がい者等を受け入れる場の構築につながる。 ・スタッフの高齢化が進んでおり、継続していくためには後継者の育成が必要。 	西区社会福祉協議会
2 子育てサロン事業助成	子どもたちが一緒に遊び交流する場、未就学の子どもの親の情報交換・気分転換の場等、定期的に行う子育てサロンを実施している団体に助成	7団体	8団体	7団体	6団体	8団体	B	申請団体が伸びない。		西区社会福祉協議会
3 子ども（親子）の居場所	コミュニティ協議会などの地域組織による子育て支援	5団体	5団体	6団体	7団体	8団体	A	地域で子育てを支援するという機運の醸成が図られた。		西区健康福祉課 児童福祉係
4 西っ子ふゆまつり	新潟の冬を屋内で楽しく過ごしてもらうための様々な遊びや空間を提供し、子どもの健全育成及び子育て支援を図る。	参加者 1,197名	参加者 3,469名	参加者 3,859名	参加者 3,529名	参加者 3,600名	A	西区の冬の一大イベントとして認知され、関係団体との連携も良くなってきた。		西区健康福祉課 児童福祉係
5 地域の茶の間利用者のバスツアー	西区内の施設、もしくは新潟市内の健康福祉に関する施設をバスで巡り、その後、公民館を会場に保健師等による健康相談・介護予防教室の実施			5団体 参加者 116名	10団体 参加者 218名	10団体 参加者 189名	A	参加者同士の交流及び運営スタッフの交流が図られたほか、新たな茶の間の立ち上げにつながった。		西区健康福祉課 地域福祉係
6 地域交流貢献事業（出前講座）	単一の自治会、コミ協に職員が出向き、認知症サポーター養成講座や、防災訓練などを実施		開催数 12回 参加者 14,874名	開催数 20回 参加者 12,700名	開催数 20回 参加者 13,569名	開催数 20回 参加者 14,200名	A	地域に根差した地域に入るきっかけとして実施しているが、地域の声を聴く機会にもなっており、活動の活性化を図ることができている。		西区社会福祉協議会
7 生きがい対応型通所事業（ふれあいティールーム）	介護予防と社会参加の促進を目的とした高齢者のサロン（スタジオマハロ・老人憩の家寺尾荘・二番町観音さま町内集会所・黒崎健康センターで開催）。茶話会を中心として様々なプログラムを実施。	開催数 497回 参加者 4442名	開催数 505回 参加者 4398名	開催数 527回 参加者 4280名	開催数 516回 参加者 4176名	開催数 524回 参加者 4338名	A	高齢者の社会的孤立感の解消や活動意欲の向上、健康に関する意識の高揚につながっており、生きがいの創出ができてきている。		西区健康福祉課 高齢介護係 西区社会福祉協議会
8 敬老祝会助成事業	高齢者（75歳以上の方）の長寿を祝う敬老祝会を実施する自治会やコミ協に対し助成する事業。				43団体	44団体	A	事業の認知がされつつある。既存の敬老祝会以外にも新規の敬老祝会が開かれる等、効果が見られる。		西区社会福祉協議会

2. 情報の共有・相談支援の充実

- ①必要な人に必要な時にきちんと情報が届くような情報提供の仕組みをつくりましょう
 ②身近な地域の情報交換場所や相談先がわかるようにしよう
 ③情報格差をなくし、だれもが情報を入手しやすいまちづくりをすすめてみましょう

評価：充実した：A、あまり変わっていない：B、後退した：C

事業名	内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度（見込）	評価	事務局 コメント・課題等	委員会 コメント・課題等	担当部署
1 高齢者の知りたい窓口作成	高齢者が必要とする情報（連絡先）を掲載した情報誌「高齢者の知りたい窓口」をコミ協ごとに作成			2コミ協 4,300冊	6コミ協 7,700冊	7コミ協 10,000冊	A	日常的に必要な情報等に掲載内容を絞り、高齢者にとって検索しやすい情報紙となっており、またコミ協独自の情報も掲載し地域活動のPRにも貢献。	・情報が溢れすぎていて、逆にどこに相談すればいいかわからないという状況がある。	西区健康福祉課 地域福祉係
2 地域の茶の間メニュー作成	地域のお茶の間の活性化を促進するため、行政・西区社会福祉協議会が主催する体験行事・講座等を地区ごとにまとめた「地域のお茶の間メニュー」を作成し配布する			坂井輪地区版 300部	黒崎地区版 西区地区版 各200冊部		A	お茶の間を行っている団体、またはこれから立ち上げようとする団体に、効果的にメニューを紹介することができた。	・一人暮らしや引きこもり、外国籍の方など、情報が届きにくい方に、どのように届けていくかという点が課題。	西区健康福祉課 地域福祉係
3 子育て情報誌の作成	西区の子育て支援団体などの紹介や子育てに関する情報を掲載					9,000冊	A	平成25年度からの新規事業。子育て世代が必要としている情報収集が課題。	・耳と目と両方から情報が入ってくるように組み合わせる必要がある。	西区健康福祉課 児童福祉係
4 福祉のまちづくり講演会	講演会を通して、ささえあいプランの普及・啓発を図り、身近な地域の中で、助け合い・支え合えるまちづくりを進めていくことを目指す		参加者 若干名	参加者 120名	参加者 300名	参加者 80名	A	講演会を通して、地域福祉の必要性を伝えることができた。	・地方のFMラジオ局に協力を求めることも一つの手段。	西区健康福祉課 地域福祉係
5 機関紙「西区社協だより」発行	区社協事業の紹介、イベント等の案内を定期的に行う。	年3回配付 （自治会経由）	年3回配付 （自治会経由）	年3回配付 （自治会経由）	年3回配付 （自治会経由）	年3回配付 （自治会経由）	A	21年度に区民から愛称を公募し、「西区きらりんだより」に決定。デザインは24年度に一新。現在は7月、10月、3月に発行	・最も確実な情報伝達手段は、向こう三軒両隣が声を掛け合っていくという、人と人とのつながりである。もう一度、地域コミュニティのあり方を、考え直す必要がある。	西区社会福祉協議会
6 広報紙「西区役所だより」発行	健康診断、各種検診のお知らせのほか、予防接種、育児相談、健康教室などの案内や公民館講座などを掲載。点字版・音声版を毎月発行。	毎月第1・3日曜発行 （新聞折込）	毎月第1・3日曜発行 （新聞折込）	毎月第1・3日曜発行 （新聞折込）	毎月第1・3日曜発行 （新聞折込、希望者に郵送） 56,000部	毎月第1・3日曜発行 （新聞折込、希望者に郵送） 56,000部	A	タブロイド判化（平成23年7月）より『健康と福祉』欄を毎月掲載。平成24年度から、音声版にCD（デジ版）を追加した。	・町内だよりの配布など、月一回は班長が各戸を回って、安否確認を含め情報伝達しているが、非常に有効である。	西区地域課

いきいきいきいき西区ささえあいプラン 平成21～25年度の事業の検証について

3. 人材の育成・担い手発掘

- ①地域の活動リーダー、コーディネーターを育成しましょう
- ②だれもが福祉の担い手となるようなきっかけをつくりましょう。
- ③ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みをつくりましょう

評価： 充実した : A, あまり変わっていない : B, 後退した : C

事業名	内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度(見込)	評価	事務局 コメント・課題等	委員会 コメント・課題等	担当部署
1 地域ふれあい事業助成	自治会・町内会等の世代交流や高齢者等の生きがい推進につながる交流事業に助成 自治会・町内会=1回1万円上限	44団体 108件	53団体 134件	60団体 141件	66団体 122件	60団体 81件 ※10月末現在	A	年度毎に申請団体が増えており、新規の交流事業を開催するきっかけや、支援に。また、毎月型でない茶の間への支援にも。	・地域福祉の中でも、どういったテーマの人材を育てていくのか、しっかり計画を立てる必要がある。 ・ボランティアを育成するものは多いが、地域の中で継続的に活動できるリーダーを意識的に育てる計画が必要。 ・福祉とは「生きる価値を高めること」であるため、それを小学校低学年からしっかりと教育していく必要がある。	西区社会福祉協議会
2 歳末たすけあい事業(地域の各種団体)	歳末時期の地域コミュニティで行われる世代交流事業に助成	18団体	25団体	57団体	61団体	65団体	A	平成23年度に助成条件を変更し、開催期間を拡大したため申請が大幅に増えた。		西区社会福祉協議会
3 ボランティア・市民活動相談	ボランティア・市民活動、福祉教育の相談など幅広く対応	428件	404件	329件	290件	364件	B	総合学習は、年々当事者の生活を理解する内容となっている。しかし、障がい当事者の講師の場合、交通費実費程度で構わないので、謝金を用意していただけるとありがたい。		西区社会福祉協議会
4 ボランティア活動振興事業	総合学習・受け入れ施設研修会	開催数 1回 参加者 30名	開催数 1回 参加者 30名	開催数 1回 参加者 19名	開催数 1回 参加者 14名	開催数 1回 参加者 31名	A	ボランティア受入施設担当者研修会の参加者は、充実した研修を開催できた。次の開催を遂行中。		西区社会福祉協議会
5 各種ボランティア講座	ボランティア入門講座、傾聴ボランティア講座、介護講座、脳活性チャレンジ講座、各種講座	開催数 15回 参加者 145名	開催数 15回 参加者 271名	開催数 23回 参加者 383名	開催数 12回 参加者 217名	開催数 17回 参加者 323名	A	講座を受講する方が増加し、ボランティアへの関心が伺える。今後、さらに明確な講座を開催する予定。		西区社会福祉協議会
6 総合学習支援	小・中学校からの依頼により対応		小学校 14校 中学校 10校	小学校 16校 中学校 8校	小学校 11校 中学校 5校	小学校 15校 中学校 10校	B	例年通り。		西区社会福祉協議会
7 世代間交流促進・高齢者見守り啓発事業	小学校で行う高齢者疑似体験・認知症サポーター養成講座を通じ、児童に高齢者に関する認識を高めてもらう。					小学校2校	A	学校からは継続して実施してほしいとの意見がある。		西区健康福祉課 高齢介護係
8 支会等ふれあい交流事業助成	社会福祉協議会の支会やコミュニティ協議会がふれあい交流事業を開催する際に助成を行う。(平成24年度にて廃止)	9件	8件	7件	8件		B	地域課の地域活動助成等あることから、24年度で廃止(申請は、主にコミュニティ協議会)		西区社会福祉協議会
9 元気力アップ・サポーター制度	高齢者がサポーター活動を通じて自身の介護予防の推進と社会参加を目的としたポイント還元制の事業					受入協力機関30事業所 サポーター66人	A	初めて活動される方のきっかけにもなっており、サポーター、受入施設ともに、まだ少ないので周知を図っていく必要がある。		西区社会福祉協議会

いきいきいきいき西区ささえあいプラン 平成21～25年度の事業の検証について

4. 安心・安全の確立

- ①災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるよう取り組みましょう
- ②地域での見守り活動を推進しましょう
- ③要援護者に係る情報の把握・共有及び支援をすすめましょう

評価： 充実した : A, あまり変わっていない : B, 後退した : C

事業名	内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度(見込)	評価	事務局 コメント・課題等	委員会 コメント・課題等	担当部署
1 高齢者等あんしん見守り活動事業	見守り支援体制に不安を抱えている自治会に対し、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどと協働で、各自治会に合った見守り体制の構築を支援する。	1団体(安心生活創造事業)			3団体	6団体	A	徐々に成果は表れてきているが今後の事業の展開方法について検証と検討が必要		西区健康福祉課 西区社会福祉協議会
2 友愛訪問事業	ひとり暮らし高齢者等の孤独感解消や安否確認を兼ねて訪問(地域のボランティアや民生委員による)	70団体 1160世帯	95団体 1277世帯	102団体 1257世帯	102団体 1366世帯	104団体 1392世帯 ※11月現在	A	西区では、民生委員協議会だけでなく、自治会や地域のボランティア団体が主体となって活動している。(市内でも特徴的)		西区社会福祉協議会
3 夕食宅配サービス事業	おおむね65才以上の方で、ひとり暮らしまたは高齢者のみの世帯に対し、食の提供と安否確認を行う夕食宅配サービス。	のべ 160世帯 のべ食数 2771食	のべ 151世帯 のべ食数 2860食	のべ 183世帯 のべ食数 3583食数	のべ 184世帯 のべ食数 2355食	のべ 228世帯 のべ食数 2868食	B	民間の配食業者も増え、夕食宅配事業としての必要性を検討するべきと考える。		西区社会福祉協議会
5 介護予防情報交換会	地域で介護予防活動に取り組んでいる関係団体の方々で情報交換を行い、今後の活動の発展につなげる。	参加者 13 団体 57 名	参加者 14 団体 37 名	参加者 18 団体 50 名	参加者 26 団体 55 名	参加者 21 団体 40 名 ※見込み	A	対象を西区全域に拡大。各々の活動について意見交換し、相互支援が働く機会となっているが、対象団体の範囲や展開方法等について検討が必要。		西区健康福祉課 地域保健福祉担当
6 にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金事業	地域福祉計画・地域福祉活動計画に挙げられた課題の解決に取り組む団体を支援	認定 1団体	認定 4団体	認定 3団体	認定 3団体	認定 4団体	A	住民主体による福祉活動を始めるきっかけとして活用されている。補助期間終了後に自立して活動を継続できるかが課題。	・民間の配食事業なども、しっかりと情報を得て、まとめておく必要がある。	西区健康福祉課 地域福祉係
7 安心袋設置事業	75歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に、地域の民生委員を通して入院や災害時に必要な生活用品と緊急連絡カードが入ったリュックを配布。平成25年度事業終了	新規1072世帯 延べ1882世帯	新規432世帯 延べ2314世帯	新規149世帯 延べ2463世帯	新規280世帯 延べ2743世帯	新規102世帯 ※10月末現在	A	25年度で事業終了し、今後は「緊急情報キット」(冷蔵庫へ入れる筒型キット)の配付を進める。	・災害時要援護者名簿制度も、加えるべき。	西区社会福祉協議会
8 ささえあい訪問事業	住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるよう、75歳以上の高齢者を訪問し、健康状態や生活実態を調査する。			訪問数128人	訪問数243人		A	坂井輪地区(H23)、西地域と黒埼地区(H24)で訪問を行い、H25は事業の報告会を開催し51名が参加した。		西区健康福祉課 地域保健福祉担当
9 おせち料理配食事業	友愛訪問対象者(70歳以上の一人暮らしの方など)に、12月30日に歳末時期の見守りを兼ねて訪問し、おせち料理を渡す。	1243食	1300食	1376食	1428食	1454食 ※見込み	A	友愛訪問実施団体の協力で、歳末時期の見守り・声かけをしており、12月は友愛訪問と合わせ2回の訪問となる。		西区社会福祉協議会
10 おもいやりのひとかき運動	主要な場所に、除雪用のスコップを配置しバスや信号待ちの人たちから、ひとかきの除雪に協力してもらう運動。	86ヶ所	86ヶ所	91ヶ所	96ヶ所	97ヶ所	A	設置箇所が増加し、事業として認知されつつある。		西区社会福祉協議会
11 災害に対するボランティア研修	災害ボラセンの意義や役割を知り、立ち上げの訓練を行ったり、平常時の取り組みについて学ぶ。				2回 参加者112人	1回 参加者38人	A	災害ボラセンを設置・運営するために何が必要か、また、地域とどのように連携することが有効かなど学ぶことの多い研修であるが、地域のキーマンとなる人の参加が少ないことが課題である。		西区社会福祉協議会

いきいきいきいき西区ささえあいプラン 平成21～25年度の事業の検証について

5. 生活環境の整備・向上

- ①だれもが気軽に出かけられる環境の整備とバリアフリーをすすめましょう
- ②お互いの気持ちを理解し、だれもが安心して暮らせる仕組みをつくりましょう
- ③健康で充実した生活が送れるような取り組みをしましょう

評価： 充実した：A, あまり変わっていない：B, 後退した：C

事業名	内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度(見込)	評価	事務局 コメント・課題等	委員会 コメント・課題等	担当部署
1 おせち料理配食事業【再掲】	友愛訪問対象者(70歳以上の一人暮らしの方など)に、12月30日に歳末時期の見守りを兼ねて訪問し、おせち料理を渡す。	1243食	1300食	1376食	1428食	1454食 ※見込み	A	友愛訪問実施団体の協力で、歳末時期の見守り・声かけをしており、12月は友愛訪問と合わせ2回の訪問となる。		西区社会福祉協議会
2 まごころヘルプ事業	家事援助など日常生活支援を行う住民参加型サービス	会員数661人 ヘルプ時間数9,109時間 配食6,603食	会員数681人 ヘルプ時間数9,641時間 配食5,339食	会員数711人 ヘルプ時間数10,554.5時間 配食5,194食	会員数694人 ヘルプ時間数10,348.5時間 配食3,475食	会員数597人 ヘルプ時間数9,138時間	C	平成24,25年度とヘルプ内容の変更があり、利用者の落ち込みがある。		西区社会福祉協議会
3 生活福祉資金貸付事業	高齢者世帯・障がい者世帯・低所得者世帯を対象とした自立や社会参加のための資金貸付	71件	80件	51件	31件	20件	A	平成21年度制度改正により、条件が緩和された。離職者対象の総合支援資金の相談が軒並み増えたが、ここ1,2年は落ち着いてきている。		西区社会福祉協議会
4 日常生活自立支援事業	認知症高齢者・知的障がい者・精神障がい者など判断能力が不十分な方の福祉サービス利用援助を目的とした事業	契約15名	契約24名	契約27名	契約27名	契約35名	A	認知症高齢者の利用が特に増えてきている。(約半数)		西区社会福祉協議会
5 おもいやりのひとかき運動【再掲】	主要な場所に、除雪用のスコップを配置しバスや信号待ちの人たちから、ひとかきの除雪に協力してもらう運動。	86ヶ所	86ヶ所	91ヶ所	96ヶ所	97ヶ所	A	設置箇所が増加し、事業として認知されつつある。		西区社会福祉協議会
6 災害に対するボランティア研修【再掲】	災害ボラセンの意義や役割を知り、立ち上げの訓練を行ったり、平常時の取り組みについて学ぶ。				2回 参加者112人	1回 参加者38人	A	災害ボラセンを設置・運営するために何が必要か、また、地域とどのように連携することが有効かなど学ぶことの多い研修であるが、地域のキーマンとなる人の参加が少ないことが課題である。	・道路交通法改正により、自転車は歩道を走れなくなったが、路側帯の状況が悪く自転車が走れない場所も多い。 ・歩道も段差が多く、車椅子では危険な場所も多い。	西区社会福祉協議会
7 子ども学習支援事業	生活保護世帯の小学5年生～中学生を対象に、週1回2会場で開催。新潟大学と青陵大学の学生スタッフとともに勉強を進め、学習意欲を高め、高校進学を目指す。				学習会 93回 大学生のべ 398名 (6月開始)	学習会 103回 大学生のべ 501名 ※見込み	A	昨年度の中学卒業生は、高校へ進学。大学生とともに学ぶことで、学習意欲や学力向上、進学への動機づけへとつながる。	・違法駐車や駐輪をはじめ、モラルを守ること大きな課題。 ・市社会福祉協議会で青年後見制度をはじめたので、「成年後見制度の充実」を加えるべき。	西区保護課 西区社会福祉協議会
8 ウォーキング講習会	ウォーキングの基本的な学習と実技、継続のための工夫について学ぶ講習会	開催数 0回 参加者 名	開催数 10回 参加者 272名	開催数 11回 参加者283名	開催数 23回 参加者 338名	開催数 9回 参加者 180名	B	ウォーキングの基礎を啓発し、また自主グループ育成も支援している。		西区健康福祉課 健康増進係
9 ニコニコヘルスアップ事業	地区組織からの依頼で実施する出張教室	開催数 4回 参加者 67名	開催数 12回 参加者 259名	開催数 9回 参加者 227名	開催数 13回 参加者 250名	開催数 10回 参加者 200名	B	毎年依頼のある地区組織も有る。参加者からは、食事や運動面で改善すべき点を見つけることが出来たという声が多かった。		西区健康福祉課 健康増進係
10 高齢者介護予防運動教室	高齢者を対象にした体操やバランス運動などの教室					開催数 44回 参加者 460名	A	教室終了後の自主グループも活動開始し、課で支援している。		西区健康福祉課 健康増進係
11 健康教育事業	様々な対象者に実施する各種健康教室	開催数 174回 参加者 5,714名	開催数 187回 参加者 5,401名	開催数 207回 参加者 6,084名	開催数 208回 参加者 6,105名	開催数 210回 参加者 6,150名	A	課で企画した健康教育の他に、地域からも健康教育の依頼があり、依頼内容に対応した教室を実施している。		西区健康福祉課 健康増進係
12 健康相談事業	様々な対象者に実施する各種健康相談	開催数 75回 参加者 1,007名	開催数 76回 参加者 1,065名	開催数 81回 参加者 1,366名	開催数 86回 参加者 1,387名	開催数 90回 参加者 1,400名	A	課で企画した健康相談の他に、地域からも健康相談の依頼があり、依頼内容に対応した相談事業を実施している。		西区健康福祉課 健康増進係